



慶應義塾大学ビジネス・スクール

5

政商三菱の得失

1 岩崎彌太郎の創業

岩崎彌太郎は、天保5年（1834），土佐藩安芸郡の地下浪人（ちげろうにん）の家に生まれた。地下浪人というのは土佐藩の武士階級の下層をなす郷土の中でも末端に属する身分である。そのような低い身分に生まれた彌太郎が土佐藩の幹部に昇進し，三菱を創業するのである。そこには幸運な「出会い」があった。安政6年（1859），藩仕置役（家老）吉田東洋に抜擢されて，情報活動のために長崎出張を命じられたのが最初につかんだチャンスである。いったん退職し，その間，吉田東洋の暗殺，尊攘派（武市派）の藩政掌握などがあったが，藩主の父山内容堂が武市派を弾圧して，東洋の甥後藤象二郎が実権を握るに及び，慶応元年（1865）ふたたび抜擢された。そして，土佐藩の殖産興業機関である開成館の貨殖局に勤務，慶応3年同局長崎出張所に移り，主任になった。明治元年長崎出張所が閉鎖されると，大阪出張所に転じ，翌年には開成館幹事心得にまで昇進した。

長崎，大阪出張所は外国商館相手に土佐藩産物の売込・武器類の買付を行ったが，それだけでなく他藩のために外商との貿易代理業務，金融仲介業務を行った。主任である彌太郎は，この間に，外商から絶大な信用を得た。

版籍奉還により藩営事業が認められなくなったので，明治3年閏10月，土佐藩は開成館大阪出張所に私企業の形をとらせ，九十九（つくも）商会と名づけた。事業は相変わらず外商相手のビジネスと藩船を借り入れての海運回漕業であった。彌太郎は藩權少参事・大阪藩邸責任者として九十九商会の監督を兼ねた。ところが，明治4年7月，廃藩置県と土佐藩の解体を迎えると，後藤象二郎ら土佐藩幹部は九十九商会を彌太郎に継承させようとした。彌太郎

このケースは，森川英正教授がクラス討議の基礎資料として作成したものであり，経営上の適切もしくは不適切な状況処理を例示しようとするものではない。なお，ケース中の固有名詞は偽装されている。（1990年4月作成）

30